

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ

学校力向上プラン【R 7 年度 学校評価書（進捗）】

堺市立浅香山小学校
校長 桑田 裕介

中学校区におけるめざす子ども像
肯定的に自己を見つめ、ちがいを認め、将来の夢と希望にむかって主体的に行動できる子

R 7 年度 学校教育目標
「自らの学びや生き方に自信と誇りをもち、自他とともに大切にする子の育成」

重点取組目標
○子どもの学びを深める授業づくり ～授業力の向上～
○誰もが安心して過ごせる温かい集団づくり ～学級・学年経営力の向上～
○チーム浅香山として支え合い、高め合う学校づくり ～学校組織力の向上～

「確かな学び」の現状
全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数ともに全国平均と同水準を維持しており、特に算数の正答数分布では、上位層が多く、下位層が少ないことから、各層に応じたきめ細かな指導の成果が表れつつある。
昨年度の学校評価アンケートでは「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めている」「ノートに自分の考えを書いている」で肯定的に回答した児童の割合は8割を超えている。「授業で自分の考えを発表しようとしている」では肯定評価が65%であり、昨年度より9%向上した。引き続き、学習課題（問い）を見出し、その解決に向けて探究し、自らの学習方略も含めて振り返る学習の充実に努める。

「豊かな心・健やかな体」の現状
昨年度の学校評価アンケートで、学校が楽しいことや自尊感情については約8割を維持しているが、昨年度より減少している項目があることから、引き続き、発達支持的な生徒指導の視点を踏まえた集団づくりを充実させる必要がある。昨年度の新体力テストの結果では、「50m走」「20mシャトルラン」の値が低い傾向にあることから、走る活動等を中心に児童が楽しみながら体育学習を進め、運動習慣の定着を図る必要がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況（年度末）				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	学習規律・学習習慣	自ら学び、調べる家庭学習習慣の定着及び学級の学びを支える学習規律の徹底。	①授業と家庭学習を関連させ、丁寧な点検・励まし・価値づけを行うなどして、家庭学習習慣の定着を図る。	・「家での勉強や宿題をしていますか」で肯定評価が95%以上 ・「家での学習が習慣化されていますか」で肯定評価が75%以上	学校評価アンケート（児童、保護者）	年度末	○	自主学习ノートの校内掲示やコメント、点検などの励まし等の取組により、自律的な学習習慣の定着につなげている。				
			②静謐な学習環境の構築に向けた学習規律等の定着を図る。	「授業では先生や友だちの話を集中して静かに聞いていますか」で肯定評価が92%以上	学校評価アンケート（児童）	年度末	○	話者の話を最後まで考えながら静かに聞く習慣が定着しつつある。				
	カリキュラムマネジメント 授業改善・	個別最適な学びと協動的な学びの一体的充実により、3つの資質・能力をバランスよく育成する。	③●課題（問い）をつかむ、個人・集団で思考する、学びをふりかえりまとめる学習活動の質を向上させる。	・「自分の考えを発表しようとしていますか」で肯定評価が70%以上 ・「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めている」で肯定評価が80%以上 ・「ノートに自分の考えを書いている」で肯定評価が85%以上 ・全国学力・学習状況調査の平均正答率において、全教科で全国平均を上回る。	学校評価アンケート（児童） 全国学力・学習状況調査等	年度末	○	国語科を中心に問いを見出し、協働的に問題追究する学習過程を積み重ねた結果、児童自身が学習問題（問い）を意識し、探究・解決する楽しさを実感しつつある。				
			④●授業で児童用パソコンを習熟のほか、集団思考・表現の際の可視化・共有ツールとして、日常的かつ効果的に活用する。	「授業でパソコンを使ってどれぐらい学習していますか」で週3回以上学習しているとの回答が90%以上	学校評価アンケート（児童）	年度末	◎	各学年の発達段階に応じて、授業場面で日常的かつ効果的に活用することができている。				
			⑤各学年1回以上の授業研究を実施し、仮説・取組の検証を行うとともに、活発な意識により、日々の授業力を向上させる。	各学年で公開を伴う授業研究を実施し、日々の授業力向上につなげている	実施報告	年度末	◎	全学年で研究授業・事前・事後研究を積み重ねながら、教員個々の授業力向上につなげることができた。				
豊かな心・健やかな体	自尊感情・自己指導力	子どもの居場所と出番、自己決定の場を意図的に確保し、自尊感情・自己肯定感を高めるとともに、規範意識・自己指導力を育成する。	⑥●生徒指導の3機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間理解）を重視した発達支持的生徒指導により、いじめや不登校、問題行動の未然防止の取組を強化する。	・「学校が楽しい」で肯定評価85%以上 ・「自分にはよいところがある」で肯定評価が85%以上	学校評価アンケート（児童） 実施報告	年度末	○	称賛・価値づけを主軸においた発達支持的生徒指導の充実に向けて、全教職員が意識して取り組むことができている。				
			⑦浅小「3つの大切」（自分・人・物）の徹底を図り、静謐な教育環境をつくる。	浅小「3つの大切」の徹底で肯定評価が90%以上	学校評価アンケート（児童）	年度末	○	特に「3つの大切」について、学級、学校全体で機会をとらえての指導を通して、平準化を図っている。				
			⑧★授業をはじめ、異学年交流や学校行事等で児童個々の居場所と出番をつくり、自己肯定感・有用感・達成感を高揚させる。	「自分は誰かの役に立っていると思う」で肯定評価70%以上	学校評価アンケート（児童）	年度末	◎	授業や学校行事で、意図的・計画的に子どもが達成感を味わうことができるよう、振り返りを文章で書くことに注力した。				
	体力向上	運動に親しむ機会や環境を整え、体力の向上を図る。	⑨新体力テストの結果をもとにして、楽しく活動できる体育授業の工夫や授業改善により、体力を向上させる。	「体を動かすことが好きだ」で肯定評価が85%以上	学校評価アンケート（児童）	年度末	○	授業で一定の運動量を確保するとともに、めあてや目的を意識し、運動に対する思考を深める学習活動の充実に努めた。				
	学校づくり	地域とつながる	保護者や地域に教育活動	⑩●校報、HP、テトル等を通して、教育方針や教育活動等の学校の情報をより効果的かつ適時に発信し、理解を得る。	保護者や地域のニーズを踏まえつつ、教育活動の様子をHPに適時に掲載する	学校評価アンケート（保護者） 実施報告	毎月	◎	授業等の様子をHPに積極的に掲載することができている。テトルの運用により、効率化とともに、適時に必要な情報を発信することができた。			

	を積極的に発信し、社会に開かれた教育課程を推進する。	⑪連合自治会主催のまつりや防災訓練など、地域の活動に積極的に参画する。	地域主催の行事に積極的に参加しようと努めている	参加状況	年度末	◎	社会に開かれた教育課程の具現化に向け、総合的な学習の時間に地域の方を定期的に招いた授業の充実に取り組んだ。中学校区のふれあいフェスタでは希望児童がソーランを披露するなど、地域行事に積極的に参画することができた。				
--	----------------------------	-------------------------------------	-------------------------	------	-----	---	---	--	--	--	--

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）